



粘り強い試合運びで全国ベスト16入り。熱かった高校最後の大会で最後の夏に燃え、見事結果を残した今、次に目指すは国民体育大会。社会人の部で勝利を勝ち取ること。来年5月の地区予選会を目標に、早くも体力づくりの準備が始まりました。アルバイトの合間に夜間練習が続いています。「とりあえず全道大会へは勝ち進みたい」と追いかける対戦相手の背中もとらえ始めました。

8月、全国定時制通信制高校体育大会の卓球大会で、8人の北海道代表選手の一人として出場しました。

相手の球を受け切る試合スタイルが身。カットが得意なのでバックサーブが決まったらこっちはもの。そして受けから攻撃への素早いチェンジがポイント。それだけに接戦になることが多く、負ける時は波に乗れずに負けてしまふ」と自らのスタイルを分析しま

す。粘り強い試合運びに持ち込むためにも、下半身強化が今後の課題。

練習の活動拠点は、「道場」と呼ぶ旭川市末広の鉄筋造り2階建ての元家具製造工場跡ビル。チーム仲間の一人がビルを買い取り、6台の卓球台を置いて練習できる広いスペースを確保しています。

定時制の学校授業終了後、また昼間の勤務終了後、メンバー20人の中の誰かが毎夜練習にやってきました。クラブリーダーの伊藤翔さんが指導的なコーチ役を務めています。その成果が高校最後の大会結果につながったのです。

小学校2年生で東川卓球少年団に入団、めきめきと頭角を表しました。しかし6年生卒業と同時に、少年団は団員3人に減ってしまい解散。以来、町内には今も卓球少年団はありません。

もともと伸び盛りだった中学3年生の時、じん帯を伸ばすけがで実力を発揮できませんでした。「中体連の1週間前、学校の廊下を走っていて左足をくじいてしまつて…。団体戦でうまく決勝まで



行けたけれど、個人戦では負けてしまった。けがさえなければ…」と今も無念な記憶としてよみがえります。

旭川東高校定時制に進学後入部した卓球部は、自分も含めて部員4人。その後毎年1人ずつ部員が減り、4年生でついに1人だけに。そんな少人数の活動の中で、2年生から連続3回全国出場を果たしてつかみ取った集大成の成果でした。



「道場」と呼ぶ練習場は旭川市内の元家具工場

栗林航太さん／西町2

北海道旭川東高校定時制4年、19歳。全国高等学校定時制通信制体育大会第46回卓球大会(8月6～8日・東京駒沢オリンピック公園総合運動場体育館)で全国ベスト16。旭川市内の市民卓球クラブチーム「翔くんとゆかいな仲間たち」所属。



全国定時制通信制高校体育大会の卓球大会開会式(今年8月6日、東京・駒沢オリンピック公園総合運動場体育館)